

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成25年11月12日

【四半期会計期間】 第88期第2四半期(自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日)

【会社名】 ダイジェット工業株式会社

【英訳名】 DIJET INDUSTRIAL CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 生悦住 歩

【本店の所在の場所】 大阪市平野区加美東二丁目1番18号

【電話番号】 06(6791)6781(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 生悦住 英臣

【最寄りの連絡場所】 大阪市平野区加美東二丁目1番18号

【電話番号】 06(6791)6781(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 生悦住 英臣

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第87期	第88期	第87期
		第2四半期 連結累計期間	第2四半期 連結累計期間	第87期
会計期間		自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高	(千円)	4,484,252	4,313,628	8,744,183
経常利益	(千円)	203,085	71,083	352,718
四半期(当期)純利益	(千円)	132,155	44,689	263,482
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	6,538	139,905	328,893
純資産額	(千円)	5,610,459	5,995,937	5,945,734
総資産額	(千円)	13,888,245	14,090,698	14,006,101
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	4.43	1.50	8.83
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	40.4	42.6	42.5
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	182,810	268,103	687,518
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	346,870	390,453	533,306
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	227,181	146,290	138,316
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	1,382,701	1,640,483	1,614,525

回次		第87期	第88期
		第2四半期 連結会計期間	第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	2.26	0.70

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第87期第2四半期連結累計期間、第88期第2四半期連結累計期間及び第87期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、円安効果により輸出環境が改善するなど緩やかな回復基調にありましたが、欧州債務問題や、中国経済の成長鈍化等、経済情勢を悪化させる要因が潜在しており、引き続き先行き不透明な状況となっております。

当社グループにおきましては、国内向け販売が減少し、当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同四半期比3.8%減の4,313百万円となりました。国内向けは前年同四半期比7.2%減の2,582百万円、輸出は同1.7%増の1,731百万円で、地域別では、北米向けが同15.5%増の399百万円、西欧向けが同29.9%増の258百万円、アジア向けが同11.9%減の914百万円、その他地域向けが同33.8%増の158百万円となり、この結果、連結売上高に占める輸出の割合は、前年同四半期に比べ2.1ポイント増加し40.1%となりました。

製品別では、焼肌チップが前年同期比8.3%減の745百万円、切削工具が同0.7%増の2,925百万円、耐摩耗工具が同16.4%減の637百万円となりました。

収益面では、受注の減少に伴う生産性の悪化を主要因として、収益性は前年同四半期に比べ悪化しており、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、営業利益が前年同四半期比76.1%減の60百万円、経常利益が同65.0%減の71百万円、四半期純利益が同66.2%減の44百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

資産は前連結会計年度末に比べ84百万円増加し14,090百万円となりました。このうち流動資産は157百万円の減少、固定資産は242百万円の増加であります。

流動資産の変動の主な要因は、現金及び預金が25百万円増加したことに対し、受取手形及び売掛金が206百万円減少したことです。

固定資産のうち、有形固定資産は105百万円増加しました。変動の主な要因は、減価償却費の計上による減少268百万円、設備投資の実施による増加379百万円です。投資その他の資産は140百万円増加しました。変動の主な要因は、投資有価証券の評価額が株価の上昇を受け137百万円増加したことです。

(負債)

負債は前連結会計年度末に比べ34百万円増加し、8,094百万円となりました。このうち流動負債は268百万円の減少、固定負債は302百万円の増加でありました。

流動負債の変動の主な要因は支払手形及び買掛金が146百万円、短期借入金が71百万円減少したことであります。

固定負債の変動の主な要因は、長期借入金が331百万円増加したことであります。

(純資産)

純資産は前連結会計年度末に比べ50百万円増加し5,995百万円となりました。株主資本は、配当の実施や四半期純利益が44百万円であったこと等により5,664百万円となりました。また、株式の時価評価等により、その他の包括利益累計額は95百万円増加し331百万円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により獲得した資金は268百万円でありました(前第2四半期連結累計期間は182百万円の獲得)。資金流入の主な要因は、税金等調整前四半期純利益67百万円、減価償却費273百万円、売上債権の減少212百万円であり、資金流出の主な要因は、仕入債務の減少149百万円、法人税等の支払額59百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により流出した資金は390百万円でありました(前第2四半期連結累計期間は346百万円の流出)。主な要因は、設備投資382百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により獲得した資金は146百万円でありました(前第2四半期連結累計期間は227百万円の獲得)。主な要因は借入金の返済による支出1,140百万円に対し、借入による収入が1,400百万円であったことであります。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高は前連結会計年度末と比べ、25百万円増加し1,640百万円となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等(会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項)は次のとおりです。

1 基本方針の内容

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社の事業特性並びに株主をはじめとする国内外の顧客・社員・取引先等の各ステークホルダーとの間に築かれた関係や当社の企業価値の本源を十分に理解し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を中長期的に確保し、継続的若しくは持続的に向上させる者であることが必要と考えております。

また、当社は、当社株式に対する大規模な買付行為が行われた際に、これに応じられるかどうかは、最終的には株主の皆様の自由な意思と判断によるべきものであると考えておりますが、一方では、大規模な買付行為の中には、その目的等から見て当社の企業価値ひいては株主共同の利益に明白な侵害をも

たらずもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれのあるもの、当社の取締役会が代替案を提案するための必要な情報や時間を与えることなく行われるもの、当社と当社のステークホルダーとの関係を損ねるおそれのあるもの等、企業価値ひいては株主共同の利益に資さないものも想定されます。

当社では、このような当社の企業価値ひいては株主共同の利益を毀損するような大規模な買付行為を行う者は当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えております。

2 基本方針の実現に資する取組み

基本方針の実現に資する特別な取組み

()企業価値向上の取組み

当社は、1938年に創業以来、超硬合金・超硬工具の専門メーカーとして、「独創性豊かな技術開発で世界に貢献する」ことを経営理念に掲げ、新技術・新製品の創造による成長の持続を目指しております。

また、当社は、素材の開発から一貫した製品づくりを行い、国内外の幅広い需要家に提供していく中で、時代に即した事業体制の構築を進め、中期経営目標においても「高付加価値製品の開発による企業収益の向上」「海外売上高比率の向上」「スピードとチャレンジ」「社会的責任の達成と社会貢献」を掲げ、将来に向けて企業価値の向上に取り組んでおります。

さらに、当社は、継続して社会から信頼され、企業倫理に則した公正な事業活動を推進していくために、取締役をはじめ全従業員に対する行動の基本方針としての行動規範及び行動規準を遵守し、内部統制システムを整備してコンプライアンス重視の経営体制を進めております。

このような取組みを通じて、当社は、社会的責任を果たすべく透明性・健全性の高い効率的な経営活動を実現し、株主をはじめとする各ステークホルダーに最大限に配慮しながら、継続的、安定的に収益を確保し、企業価値を高めることが経営の最重要課題と考えております。

()コーポレートガバナンスの充実への取組み

当社は、5名からなる取締役会を最高の意思決定及び監督機関とし、取締役に5名の業務役員を加えた経営会議を構成し、業績の月次進捗状況等、経営全般にわたり情報の共有化を図り、迅速な意思決定と効率的な事業運営を図っております。

また、当社は監査役制度を採用しており、社外監査役2名を含む4名の監査役は監査役会を構成し、各監査役の情報の共有化を図るとともに、取締役会、経営会議のほか重要な会議に出席し、取締役の業務執行を厳重に監視するとともに、各事業部門についても業務監査を実施し、厳正な監視を行っております。

さらに、当社は、経営理念を実現し事業活動を展開することにより、社会へ貢献し、その社会的責任を果たすことを目指してまいりましたが、経営環境が大きく変化していく中で今後も社会から信頼され、企業倫理に則した公正な事業活動を推進し、内部統制システムを整備していくことが必要であり、重要であると考えております。

そのため、取締役をはじめ全従業員に対する行動の基本方針として、行動規範及び行動規準を定めて遵守に努めているほか、取締役相互の業務執行の監督等による法令違反行為の未然防止等、コンプライアンス重視の経営体制を進めております。

基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、当社の企業価値・株主共同の利益を確保・向上させ、上記基本方針を実現するため、平成20年6月27日開催の第82回定時株主総会において株主の皆様のご承認を得て、「当社株式の大規模買付行為に関する対応策」(買収防衛策)(以下、「本プラン」といいます。)を導入し、さらには平成23年6月29日開催の第85回定時株主総会において株主の皆様のご承認を得て、一部内容を変更した上で本プランを継続しております。

本プランでは、当社株式に対し20%以上の大規模買付行為(市場取引、公開買付等の具体的な買付方法の如何を問いませんが、あらかじめ当社取締役会が同意したものを除きます。)を行おうとする者(以下、「大規模買付者」といいます。)が大規模買付行為実施前に遵守すべき、大規模買付行為に関する合理的なルール(以下、「大規模買付ルール」といいます。)を定めております。

大規模買付ルールは、当社株主の皆様が大規模買付行為に応じるか否かを判断するために必要な情報や、当社取締役会の意見を提供し、更には当社株主の皆様が当社取締役会の代替案の提示を受ける機会を確保することを目的としております。当社取締役会は、大規模買付者に対し、大規模買付行為に関する必要かつ十分な情報を当社取締役会に提供することを要請し、当該情報の提供完了後、大規模買付行為の評価検討のための期間を設定し、当社取締役会としての意見形成や必要に応じ代替案の策定を行い、公表することとします。

従いまして、大規模買付行為は、取締役会の評価検討の期間の経過後にのみ開始されるものとします。大規模買付者が、大規模買付ルールを遵守した場合は、当社取締役会は、当該大規模買付行為が、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく毀損することが明白と判断される場合を除き、対抗措置をとりません。

ただし、大規模買付者が、大規模買付ルールを遵守しなかった場合、遵守しても大規模買付行為が当社に回復し難い損害をもたらす等、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうと判断される場合には、当社取締役会は、当社企業価値ひいては株主共同の利益を守ることを目的として、対抗措置をとることがあります。なお、対抗措置の中には例えば既存の株主に対する新株予約権の無償割当等の措置を含んでおります。

このように、対抗措置をとる場合には、その判断の合理性及び公正性を担保するために、当社取締役会は、対抗措置を発動するか否かの判断に際して、特別委員会の勧告を最大限尊重するものとし、必要に応じて特別委員会の勧告又は取締役会の判断により、株主の皆様意思を確認するための手続きをとることもあります。

3 具体的取組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

基本方針の実現に資する特別な取組み

上記2 に記載した企業価値向上への取組みやコーポレートガバナンスの充実への取組みは、当社の企業価値・株主共同の利益を継続的、安定的に向上させるための具体的方策として策定されたものであり、当社の基本方針に沿うものです。

基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

前記2 に記載のとおり、本プランは、当社の企業価値・株主共同の利益の確保・向上を目的として導入されたものであり、当社の基本方針に沿うものです。

特に、本プランは、株主総会において株主の承認を得ることを条件に導入されたものであること、有効期間を3年間とするサンセット条項が付され、有効期間満了前であっても株主総会の決議により廃止できるとされていること、独立性の高い者のみから構成される特別委員会が設置され、本プランの発動に際しては必ず特別委員会の判断を経ることが必要とされていること、その内容として合理的な客観的発動要件が設定されていることなどにより、その合理性・客観性が担保されており、当社の企業価値・株主共同の利益の確保・向上に資するものであって、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は207百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年11月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	29,929,996	29,929,996	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 1,000株
計	29,929,996	29,929,996		

(注) 発行済株式数には現物出資による発行株式40,000株(2,000千円)が含まれております。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年9月30日		29,929,996		3,099,194		1,689,280

(6) 【大株主の状況】

平成25年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
ダイジェット持株会	大阪市平野区加美東2丁目1番18号 ダイジェット工業株式会社総務部内	1,601	5.35
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区丸の内1丁目3番3号	1,479	4.94
ダイジェット取引先持株会	大阪市平野区加美東2丁目1番18号 ダイジェット工業株式会社総務部内	1,381	4.62
生悦住 望	大阪市阿倍野区	1,363	4.55
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	1,244	4.16
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2丁目1番1号	855	2.86
共栄火災海上保険株式会社	東京都港区新橋1丁目18番6号	827	2.77
株式会社不二越	富山市不二越本町1丁目1-1	700	2.34
生悦住 歩	大阪市阿倍野区	610	2.04
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1-2	519	1.74
計		10,579	35.37

(注) ダイジェット持株会は当社の得意先により、ダイジェット取引先持株会は当社の仕入先により構成されております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 93,000		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 29,588,000	29,588	同上
単元未満株式	普通株式 248,996		同上
発行済株式総数	29,929,996		
総株主の議決権		29,588	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式343株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ダイジェット工業株式会社	大阪市平野区加美東 二丁目1番18号	93,000		93,000	0.31
計		93,000		93,000	0.31

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、清友監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,614,525	1,640,483
受取手形及び売掛金	¹ 2,340,614	2,133,655
商品及び製品	1,895,396	1,919,540
仕掛品	869,563	935,203
原材料及び貯蔵品	1,009,828	919,520
未収入金	16,890	11,158
繰延税金資産	248,666	253,786
その他	91,964	116,094
貸倒引当金	11,610	11,093
流動資産合計	8,075,839	7,918,349
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,004,112	991,838
機械装置及び運搬具(純額)	1,736,820	1,803,416
土地	1,060,610	1,060,610
リース資産(純額)	273,531	250,779
その他(純額)	64,104	138,426
有形固定資産合計	4,139,178	4,245,071
無形固定資産	56,087	51,428
投資その他の資産		
投資有価証券	1,102,295	1,239,612
長期貸付金	572	365
長期預金	300,000	300,000
差入保証金	69,078	68,695
保険積立金	272,194	279,158
その他	18,577	15,734
貸倒引当金	27,722	27,716
投資その他の資産合計	1,734,996	1,875,849
固定資産合計	5,930,262	6,172,349
資産合計	14,006,101	14,090,698

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	¹ 1,190,400	1,043,831
短期借入金	1,686,982	1,615,084
未払法人税等	54,239	29,920
賞与引当金	183,134	187,205
未払費用	82,214	58,097
その他	¹ 393,582	388,064
流動負債合計	3,590,552	3,322,202
固定負債		
長期借入金	2,435,583	2,767,195
リース債務	235,550	210,177
資産除去債務	18,360	18,360
長期未払金	386,474	357,185
退職給付引当金	1,258,831	1,236,432
繰延税金負債	135,013	183,208
固定負債合計	4,469,814	4,772,558
負債合計	8,060,367	8,094,761
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,099,194	3,099,194
資本剰余金	1,703,396	1,703,396
利益剰余金	928,827	884,003
自己株式	21,539	21,728
株主資本合計	5,709,878	5,664,866
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	242,574	329,555
為替換算調整勘定	6,718	1,515
その他の包括利益累計額合計	235,855	331,071
純資産合計	5,945,734	5,995,937
負債純資産合計	14,006,101	14,090,698

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	4,484,252	4,313,628
売上原価	3,116,433	3,048,932
売上総利益	1,367,818	1,264,696
販売費及び一般管理費	¹ 1,115,972	¹ 1,204,545
営業利益	251,846	60,151
営業外収益		
受取利息	490	21
受取配当金	12,900	13,949
助成金収入	72	72
為替差益	-	21,533
その他	11,212	9,224
営業外収益合計	24,675	44,801
営業外費用		
支払利息	35,235	32,297
為替差損	27,370	-
その他	10,830	1,571
営業外費用合計	73,436	33,869
経常利益	203,085	71,083
特別利益		
固定資産売却益	818	119
特別利益合計	818	119
特別損失		
固定資産除却損	35	3,684
投資有価証券評価損	6,493	-
特別損失合計	6,528	3,684
税金等調整前四半期純利益	197,374	67,518
法人税、住民税及び事業税	41,333	35,377
法人税等調整額	23,885	12,549
法人税等合計	65,218	22,828
少数株主損益調整前四半期純利益	132,155	44,689
四半期純利益	132,155	44,689

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	132,155	44,689
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	122,628	86,981
為替換算調整勘定	16,065	8,233
その他の包括利益合計	138,694	95,215
四半期包括利益	6,538	139,905
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,538	139,905
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	197,374	67,518
減価償却費	269,699	273,686
投資有価証券評価損益(は益)	6,493	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	3,903	523
受取利息及び受取配当金	13,390	13,970
支払利息	35,235	32,297
為替差損益(は益)	308	23
固定資産売却損益(は益)	818	119
固定資産除却損	35	3,684
売上債権の増減額(は増加)	136,278	212,939
たな卸資産の増減額(は増加)	268,899	11,428
仕入債務の増減額(は減少)	86,826	149,028
その他	19,766	90,495
小計	259,627	347,440
利息及び配当金の受取額	12,112	12,683
利息の支払額	36,172	32,611
法人税等の還付額	3,325	-
法人税等の支払額	56,082	59,408
営業活動によるキャッシュ・フロー	182,810	268,103
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	321,862	382,055
有形固定資産の売却による収入	850	600
無形固定資産の取得による支出	18,850	260
投資有価証券の取得による支出	926	2,167
貸付金の回収による収入	381	191
その他	6,464	6,761
投資活動によるキャッシュ・フロー	346,870	390,453
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	1,000,000	300,000
短期借入金の返済による支出	1,200,000	400,000
長期借入れによる収入	1,250,000	1,100,000
長期借入金の返済による支出	716,556	740,286
自己株式の取得による支出	237	188
ファイナンス・リース債務の返済による支出	17,539	24,671
配当金の支払額	88,484	88,563
財務活動によるキャッシュ・フロー	227,181	146,290
現金及び現金同等物に係る換算差額	945	2,016
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	62,175	25,957
現金及び現金同等物の期首残高	1,320,526	1,614,525
現金及び現金同等物の四半期末残高	¹ 1,382,701	¹ 1,640,483

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日至平成25年9月30日)
1. 税金費用の計算	税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、この計算で合理性を欠く場合には、税引前四半期純利益を調整のうえ、法定実効税率を用いて税金費用を計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形が、連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
受取手形	90,999千円	
支払手形	188,009 "	
設備関係支払手形	13,288 "	

(四半期連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日至平成25年9月30日)
給与手当及び賞与	315,959千円	335,570千円
減価償却費	6,611 "	11,652 "
賞与引当金繰入額	47,027 "	50,308 "
退職給付引当金繰入額	33,890 "	27,866 "
支払手数料	85,622 "	96,566 "
広告宣伝費	31,266 "	52,025 "
研究開発費	87,199 "	96,174 "
貸倒引当金繰入額	3,993 "	36 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
現金及び預金	1,515,701千円	1,640,483千円
預入期間が3か月を超える 定期預金	133,000 "	
現金及び現金同等物	1,382,701千円	1,640,483千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	89,521	3.00	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
 該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	89,513	3.00	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
 該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社及び連結子会社の事業は、主として超硬合金・工具の製造及び製品等の販売を営んでいるものであり、報告セグメントとしては当該事業のみを対象とし単一であるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

デリバティブ取引の四半期連結会計期間末の契約額等は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	4円43銭	1円50銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	132,155	44,689
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	132,155	44,689
普通株式の期中平均株式数(株)	29,840,169	29,837,196

(注) 前第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第88期(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)中間配当については、平成25年10月31日開催の取締役会において、これを行わない旨を決議いたしました。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月12日

ダイジェット工業株式会社
取締役会 御中

清友監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 矢 本 博 三 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 和 田 司 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 後 藤 員 久 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているダイジェット工業株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ダイジェット工業株式会社及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。